

# 第2章

---

# 高齢社会で 売れる商品・サービス 売れない商品・サービス

高齢社会ではどんな商品・サービスが売れ、逆にどういう商品・サービスが売れないのか…と言ったことを探る事は時代先取り業でもある、企業経営にとって極めて重要である。

こう言うと、それがわかれば苦勞をしないと、読者からお叱りを受けそうであるがそれは誤解である。というのは、高齢者の消費支出内容は、中年や若年のそれと同じでは決して無いからである。

事実、総務省が毎年発刊する『家計調査年報』を詳細に見ると、家計の消費支出は世帯主年齢により大きく異なっている事が示されているからである。つまり、世帯主年齢が高くなればなるほど、消費支出が増加する商品やサービスがあるかと思えば、逆に減少する商品やサービスがあるのである。

本章では、『家計調査年報』から約 500 品目を取り出し、それぞれの商品やサービスの消費支出金額と消費支出割合が世帯主年齢によりどこがどう異なっているのかについて観察することとする。

なお、消費支出の傾向値を見るため、データは、平成 13 年、14 年そして 15 年の、3 ヶ年の『家計調査年報』を利活用し、金額と消費支出割合はその 3 ヶ年間の平均値を取り出した。

## 1. 米穀類（めん類）

米穀類（めん類）の消費購入額をみると、60歳代及び70歳以上の方が、40歳代や50歳代のそれを上回っているのが、米、もち、そして乾うどん・そばの3つである。

例えば、米は40歳代が37,160円、50歳代が42,093円に対し、60歳代は44,056円、70歳以上は43,071円である。また、もちは40歳代が1,673円、50歳が2,404円に対し、60歳代は3,101円、70歳以上は3,729円と一段と高まる。

一方、60歳代及び70歳以上の消費購入額が40歳代、50歳代のそれを下回っているのが、食パン、生うどん、スパゲッティ、中華めん、即席めん、そして小麦粉等である。

例えば、食パンは、40歳代が10,143円、50歳代が9,270円に対し、60歳代は8,621円、70歳以上は8,259円に減少する。またスパゲッティは40歳代が1,714円、50歳代が1,137円に対し、60歳代は679円、70歳以上は更に一段と減少し471円となる。このことは、生うどん、中華めん、即席めんそして小麦粉においても同様の傾向がみられる。

こうしてみると、米穀類（めん類）の中で、米、もち、そして乾うどん・そばは、高齢社会で消費が増加するが、その加工食品である食パン、生うどん・そば、スパゲッティ、中華めん、そして即席めんは、高齢社会では消費が減少する商品であることが分かる。

おそらくこれは、加齢するにつれ無意識のうち、伝統的主食であるお米を体が要求することや、祝日・祭日あるいは季節の折々において餅をついたり、赤飯や柏餅を作ったりという伝統行事を重んじたライフスタイルに変わり、逆に食パン、スパゲッティといった、洋文化型食品の消費を減少させることが示されている。



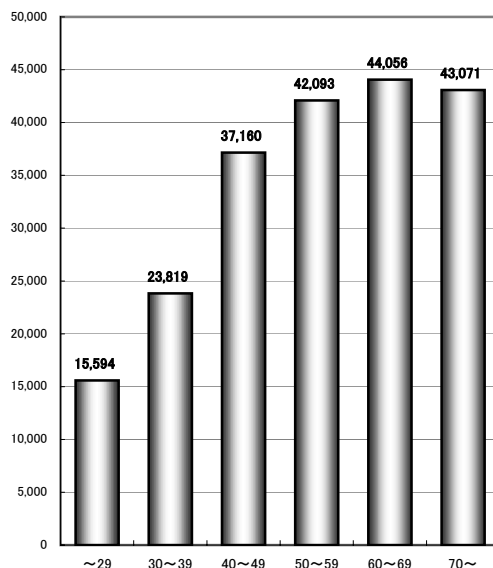
### ①米

#### ～年齢が高まるにつれ増加し、60歳代でピークを迎える～

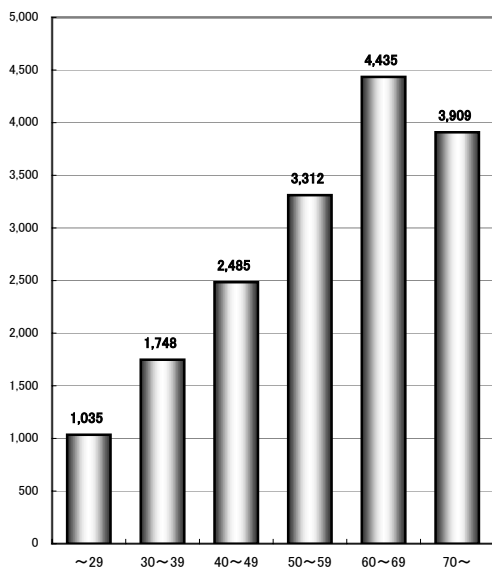
『米』の一世代あたり年間消費額は、世帯主年齢が高まるにつれ、その実額及び消費支出割合とも増加していき、世帯主年齢が「60～69歳」では44,056円とピークとなる。世帯主年齢が「70歳以上」になると43,071円と、世帯主年齢が「60～69歳」より、約1,000円減少する。

しかしながら、依然、世帯主年齢が「50～59歳」より、約1,000円も多く、またその消費割合も1.41%と、世帯主年齢が「60～69歳」の1.26%より高くなっている(図表2-1-1)。

図表 2-1-1 米の年間消費額 (単位:円)



図表 2-1-2 乾うどん・そばの年間消費額 (単位:円)



### ②乾うどん・そば

#### ～年齢が高まるにつれ大幅増加し、60歳代は40歳代の78%、50歳代の34%増～

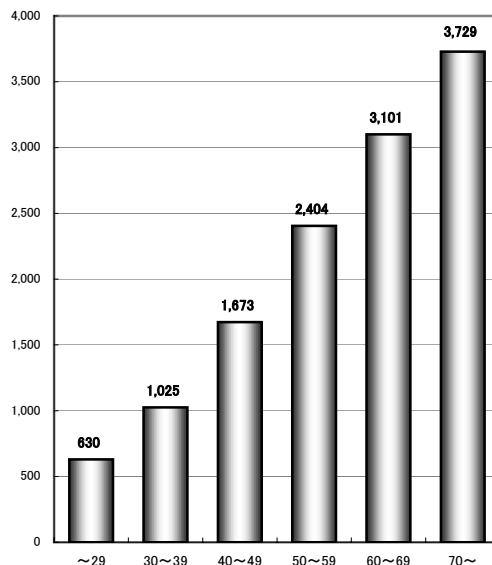
『乾うどん・そば』の一世代あたり年間消費額は、世帯主年齢が高まるにつれ、その実額及び消費支出割合とも増加していき、世帯主年齢が「60～69歳」では4,435円、消費割合も0.13%とピークになる。世帯主年齢が「70歳以上」になると3,909円と、やや減少するが、「50～59歳」の3,312円、「40～49歳」の2,485円よりはるか多くなっている(図表2-1-2)。

### ③もち

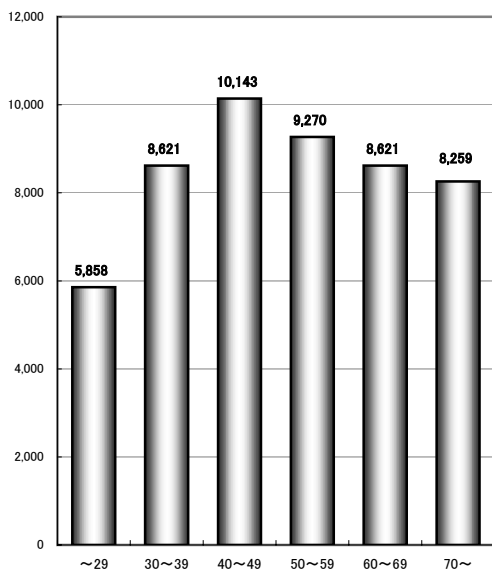
～70歳以上まで一貫して増加し、その額は60歳代の20%増、50歳代の55%増～

『もち』の一世帯あたり年間消費額は、世帯主年齢が高まるにつれ、その実額及び消費支出割合とも増加していき、世帯主年齢が「70歳以上」では3,729円となり、消費割合も0.12%とピークになる。世帯主年齢が「60～69歳」では、3,101円と、「70歳以上」に比べ少なくなっているが、「50～59歳」の2,404円、「40～49歳」の1,673円よりもはるかに多くなっている(図表2-1-3)。

図表 2-1-3 もちの年間消費額 (単位:円)



図表 2-1-4 食パンの年間消費額 (単位:円)



### ④食パン

～40歳代をピークに、60歳代では15%、70歳以上では20%減少～

『食パン』の年間消費額は、世帯主年齢が「29歳以下」では5,858円であるが、「30～39歳」は8,621円、「40～49歳」では10,143円と、年齢が高まるにつれ増加していく。

しかしながら、世帯主年齢が「50～59歳」では9,270円、「60～69歳」では8,621円、そして「70歳以上」では8,259円と、年齢が高まるにつれ減少していく(図表2-1-4)。